

第19章 福島県海浜青年の家

第1節 概要

海浜の恵まれた自然環境の中での集団宿泊研修活動をとおり、規律・責任・協同・友愛・奉仕の精神を涵養し、時代に対応できる健全な青少年を育成することを目的として、昭和50年4月に開設された県の社会教育施設である。

上記開設の趣旨を踏まえて、今年度は、下記の教育目標を掲げその達成に努めてきた。尚、8月には延利用人数が80万人に達した。

- (1) 思いやりの心に溢れた人間性豊かな青少年の育成。
- (2) 主体的で実践力に富み、創造性豊かな青少年の育成。
- (3) 心身を鍛え、自己を高めようとする意欲のある青少年の育成。
- (4) 郷土を愛し、地域社会を力強く形成していく青少年の育成。
- (5) 広い視野に立ち、国際理解の精神を身につけた青少年の育成。

1 役員及び職員組織

(1) 理事・監事

役職	氏名	所属
理事長	新妻 威男	福島県教育委員会教育長
副理事長	長澤 榮治	福島県総務部長
専務理事	堀内 俊秀	福島県海浜青年の家所長
理事	渡邊 専一	福島県教育庁教育次長
理事	今野 繁	相馬市長
理事	鈴木 完一	福島県社会教育委員の会議議長
理事	太田 緑子	福島県青少年教育振興会長
理事	藤川 光紀	福島県教育庁参事兼生涯学習課長
監事	市橋 保彦	福島県総務部財政課長
監事	小山 昭	福島県教育庁財務課長

(2) 運営委員

氏名	所属
◎ 佐藤 榮	相馬市教育委員会教育長
○ 志賀 富男	鹿島町立鹿島町公民館長
戸田 修	福島県青少年婦人課長
伊藤 行和	福島県教育庁生涯学習課主幹
渡部 光明	福島県立原町高等学校長
大槻 邦雄	相馬市立向陽中学校長
太田 豊秋	福島県青少年団体連絡協議会顧問
田中 俊英	相馬青年会議所副理事長
加藤 桂子	(利用者代表)
先崎 貞臣	(利用者代表)

◎印 委員長 ○印 副委員長

(3) 職員組織

職員	所長	次席 課長 兼長	指導 課長	主 事	指導 主事	主保 健技 任師	主兼 任運 転手 員	計
数	1	1	1	1	4	1	1	10

2 平成5年度重点目標と成果

(1) 研修内容の充実

- ① 青少年団体の利用促進と研修の充実
 - ア 青少年団体の利用を促進し、研修活動をとおりて青少年の「社会参加意識」の高揚を図った。
 - イ 多様な研修のねらいに応じられるよう、新しいプログラムの開発に努め、研修内容の充実を図った。
- ② 学校団体の研修の充実
 - ア 利用団体が自主的・主体的な研修活動が進められるよう、学校との連絡を密にし適切な指導援助に努めた。
 - イ 指導資料を整備し、各団体の効果的な活動を促進しながら、研修のねらいが達成できるように努めた。
- ③ 広報活動の充実と各種団体の利用拡大
 - ア 施設紹介のために「所報」を発行し、社会教育関係機関・団体との連携のもとに、利用の啓蒙に努めた。
 - イ 一層の利用促進を図るため、学校・公民館・企業等の訪問を実施した。

(2) 主催事業の効果的な運営

- ① 主催事業の重点的運営
 - ア 集団宿泊指導担当者研修会（5・6・2月に実施）
 - イ 親と子・海浜のつどい（7月に実施）
 - ウ 高校先・海浜のつどい（8月に実施）
 - エ 学校週5日制対応事業（年間8回実施）
- ② 事業内容の工夫・改善と啓蒙
 - ア 前年度実施の反省・評価を踏まえ、内容・方法等の工夫・改善を図った。
 - イ 各学校・各種団体に対し、積極的に啓蒙活動を行った。

(3) 現職教育の計画的推進

- ① 所内研修の充実
 - ア 実施踏査・実技研修を計画的に行い、指導に精通するように努めた。
 - イ 各種研究協議会・研修会等に参加し、指導力と資質の向上に努めた。
 - ウ O A機器の活用に精進し、事務の能率化を図った。
- ② 施設機能充実等の研究
 - ア 他社会教育施設等を視察し、本施設機能の充実に生かした。
 - イ 施設の特徴を生かした研修内容の工夫や資料の作成に努めた。
 - ウ 研修団体の利用上の要望等を基に、改善に努めた。